

地輿志

內閣文庫			
函	冊	號	類
五八	五九	一五八	漢書

二

東國輿地勝覽

卷五

其五十六冊

內閣文庫			
番號	漢	1589	
冊數	56 (46)		
函號	283	12	

蟄山 在縣南四十一里
白巖山 在縣西四十六里
宿乙庇山 在縣

北四里
全反仁山 在縣南一十二里
竹津山 在縣東八里
恒

出道山 在縣北三十九里
加乙峴 在縣北四十四里
海 在縣東八里

竹邊串 在縣北二十里
藥師津 在縣東八里
前川 在縣南一里源

出安逸王山
守山川 在縣南十一里
名蔚珍浦
骨長津 在縣

北十里
于山島 一云武陵一云羽陵
鬱陵島 一島在縣正東海中

三峯岌嶮撐空南峯稍卑風日清明則峯頭樹木及
山根沙渚歷歷可見風便則二日可到一說丁山鬱
陵本一島地方百里新羅時恃險不服智證王十二
年異斯夫為何瑟羅州軍主謂于山國入愚悍難以

【翻刻】

蠶山 在縣南四十一里 白巖山 在縣西四十六里 宿乙庇山 在縣北四十里 全反仁山 在縣南二十二里 竹津山 在縣東八里 恒出道山 在縣北三十九里 加乙峴 在縣北四十里 海 在縣東八里 竹邊串 在縣北二十里 藥師津在縣東八里 前川 在縣南一里 源出安逸王山合于守山川 守山川在縣南十一里 一名蔚珍浦 骨長津 在縣 北十一里 于山島 鬱陵島 一云武陵 一云羽陵 二島在県正東海中 三峯及業掌空 南峯梢卑 風日清明 則峯頭樹木 及山根沙渚 歷々可見 風便則二日可到 一説干山 鬱陵 本一島 地方百里 新羅時恃險不服 智證王十二年 異斯夫爲何毘羅州軍主 謂 于山國人愚悍 難以（以下はPDFの次のページ）威服 可以計服 乃多以木造獅子 分載戰船 抵其國誑之曰 汝若不服 則即放此獸踏殺之 國人恐懼來

【訳】

蠶山は県の（訳注…県庁所在地、蔚珍から）南四十一里にある。白巖山は縣の西四十六里にあり、宿乙庇山は県の北四十里にある。全反仁山は県の南二十二里にある。竹津山は県の東八里にある。恒出道山は県の北三十九里にある。加乙峴は県の北四十四里にある。海は県の東八里にある。竹邊串は県の北二十里にある。藥師津は県の東八里にある。前川は県の南一里にあり安逸王山を水源にして出て、守山川で合流している。守山川は県の南十一里にあり、一名を蔚珍浦ともいう。骨長津は県の北十一里にある。

于山島と鬱陵島は時に武陵、或いは羽陵とも呼ばれ、二島は県の真東の海中に在る。三つの峰が到達しそうなほど空を支え、南の峰はやや低い。天候が清く明らかであれば山頂の樹木及び山麓の海岸をありありと見ることができる。風が良ければ二日で到達できる。一説に于山と鬱陵は本来一つの島で、周囲は百里（約40km）ある。

（人々が地勢の）険しさを信じて従わないので智証王12年、異斯夫が何瑟羅州軍主になったとき、「于山国の人々は愚かで荒々しくて、威厳では服従させにくいから、（訳注…以下はPDFの次のページ）計略を以って従わせるのが良い」と言い、荒々しい木造の猛獣を沢山作り、多くの戦艦に分積してその国へ行き、「もしお前たちが降伏しなければ、獣を放って殺してしまうぞ」と脅した。すると、その国の人々は恐れをなして降伏した。」